

問 老朽化した遊戯施設と屋外トイレの改修を。

経済部長 修繕や補修工事等は、日常の小規模な修理については協定書に基づき指定管理者が行い、大規模な修理工事については宇城市と協議を行うことになる。指定管理者と十分検討し、お客様のニーズや利便性に配慮した施設につながるよう検討したい。

問 支配人が辞めたと聞く。その後の対策は。

経済部長 2月から民間からの一般公募を行い、経営理念、流通業務の経験者、他の物産館と競合やその対策など数項目の作文試験を行い、15人の応募の中から新支配人を3月1日付けで採用した。

問 もし赤字経営になったらどう対処するのか。

市長 役員会などいろいろ話し合いをし、地域の皆さんや議員の指導を仰ぎながら真剣に取り組む。

れ、環境大臣、農林大臣へも要望をされている。市が組織化を図り、県にも組織化を要望し、県・国に支援体制の強化を要望していきたい。

橋田章 議員

「財政健全化について」

問 財政健全化に向けて1年間どのような取組をされたのか。

市長 起債事業の抑制、職員数の削減等による退職手当の削減、施設の統廃合や事務事業の見直し等により徹底した歳出削減を行う必要があると考えている。

問 財政健全化と政策推進は相反すると思うがどうか。
総務部長 真に必要な政策は着実に推進する。市民生活にとって必要と考えられるものについては、補助事業等や有利な地方債を活用し、積極的に取り組む必要がある。

問 市長が目指す財政健全化はどういうものなのか。
市長 交付税措置のある地

方債を活用し、安定した財政運営を目指す。中・長期財政計画を作成し、財政規模に見合った施策を実行する。

「合併特例債について」

問 現在までの活用費用対効果について

総務部長 合併特例債を活用した事業は償還額の70%の交付税措置がある。財政的に有利な地方債であると認識している。

問 今後の活用について
総務部長 小型動力ポンプの更新、防火水槽の設置事業。松橋駅周辺開発事業並びに松橋駅舎改修事業。単独用排水整備事業及び県営豊川南部地区経営体育成基盤整備事業。市道新設改良事業及び戸馳大橋整備事業。小野部田・海東小改築事業及び豊野一貫校整備事業等を計画に掲載し、有効に活用していく考えである。

「農業振興について」

問 用排水対策について
経済部長 用水対策は、農

業用水再編利用対策モデル事業に取り組み、砂川地区に80tの水槽を設置し、施設園芸用の灌漑用水に利用すること。また農業用水として利用する施設を39か所工事中である。排水対策として、排水機場の補修等は土地改良施設維持管理適正化事業等を活用して取り組んでいる。

「教育振興について」

問 児童・生徒の学力、耐力向上対策について
教育部長 学力向上プロジェクトを組織して、指導法の改善等に取り組んでいる。児童・生徒の学力、体力面の状況をしっかりとらえ、その向上と充実を図るため、的確で効果的な教育施策で学校を支援する。

問 移動図書館について
教育部長 図書と触れ合うことで、潤いのある生活の手助けとなり、個性ある豊かな感受性の育成に貢献することを願う。運行については、週4日程度で年間180日ぐらいを想定している。

「豊野の小中一貫教育について」

問 今後のスケジュールは。
教育部長 平成23年に校舎建設（中学校内）。24年4月には一貫校としてスタートできるよう整備したい。

問 教育内容はどのようになるのか。

教育部長 義務教育9年間を連続性のある教育を行い、系統的、計画的な教科指導や生徒指導で学力向上、豊かな人間性や社会性の育成を図る。現在の豊野小、中学校が抱える課題の解消を第一に地域のシンボルとなり、皆が誇りとする学校を構築したい。また学校長や教頭など教職員の適正配置の人数、学校行事の選別、制服などの検討、調整、そして準備すべき項目が山積しており、豊野校の検討委員会やプロジェクトチームを設け、詳細を詰めていく。失敗は絶対許されない思いでやっている。教育内容については、小学校は平成23年から、中学校は24年から



豊野小中一貫校基本設計時イメージパース

古川紀満 議員

「篠崎市政の1年間について」

問 『ハコモノ市政から地に足をつけ、暮らしを見つめた市政に』という施策は、市民世論に合致したと思っている。篠崎市長が立案した事業なら仕方ないが、未完成の案件処理もあった。自らの成果をどのように思っているか。

市長 前任者からの課題、問題処理をすることにより、責任の重さを痛感した一年であった。まだまだ市民の

皆さんが満足できる状態ではないが、何事にも誠意を持って取り組んできたことは、評価いただけたと思っている。

「市政担当2年目に向けた決意」

問 市政2年目に向けての決意と平成22年度市政運営のための基本姿勢及び力を入れる事柄を尋ねる。

市長 予算編成では歳入歳出のバランスを最重要視し、不要不急のものは作らない。事業化にあたっては十分な精査、議論を加え、詰めるだけ詰めきるという姿勢を貫き、市の更なる飛躍を目指して頑張っていく決意である。

「松橋地域の開発について」

問 中心部を対象に交通渋滞の分析、検討が必要である。道路網の整備をどうするのか。また港町上の原線の進捗状況はどうなっているのか。

土木部長 交通渋滞対策検討会等を行い、問題点を整

理し、解決すべき問題を明確にしたいと考えている。港町上の原線は、降り口案と側道案を検討し、詳細設計のための業務委託をしたところである。

問 港町上の原線は降り口案や側道案等では血の通った施策が聞こえてこない。将来を考えたとき、道路を作るだけではなく、区画整理事業がより効果があると思うがどうか。

市長 区画整理事業で内水の浸水被害の軽減等が予想されると思う。関係機関と協議を行い、早急な事業推進を図る。

「商工業の振興策について」

問 今の経営状況に明るい兆しが見えない。実態はどうか。

経済部長 商工業を取り巻く環境は、更に厳しさを増している。今後も経営向上活動支援の実施、商工会や商店との連携を密にして、商工業振興策に取り組んでいきたい。

問 平成19年度商業統計で

は、小卸売業年間販売額が16年度と比較して、県平均は△9%であるのに、宇城市は△13%である。市の対策がおろそかになっているとしか言いようがない。何か具体的な支援策を考えているのか。

経済部長 昨年実施したうきうき商品券事業の分析を行い検討する。4月オープンの道の駅を情報発信基地として新商品の開発、ブランド作り事業等に取り組む。

問 少子高齢化が進む中、高齢で車の運転ができない人のために週1回程度のタクシー券補助はできないか。

市長 路線バス再編、利用率向上を優先に取り組みたいが、タクシー券補助という新提案も今後検討していく。



うきうき商品券